

A 大学における「キッズナース事業」の評価 —— 参加小学生の看護師への興味と地元志向 ——

渡部光恵・吉村尚美・棧敷久美子・小川佳代・長尾多美子・冨澤栄子

Evaluation of “Kids Nurse Project” at A University
—— Interest in nursing and a local-oriented mindset of elementary school
students who participated in the project ——

Mitsue WATANABE, Naomi YOSHIMURA, Kumiko SAJIKI, Kayo OGAWA,
Tamiko NAGAO and Eiko TOMIZAWA

ABSTRACT

This research aims to clarify the relationship between a local-oriented mindset of elementary school students, who participated in a community-based collaboration project to foster human resources who will play an essential role in the next-generation medical care (hereinafter, the “kids nurse project”), and their interest in nursing, and to examine the effect of the project.

A questionnaire survey was conducted among 77 elementary school students of the first to sixth grades with respect to reasons why they became interested in nursing and their mindset toward their local area. As methods of analysis, Spearman’s rank-correlation coefficients were obtained for the relationship between their local-oriented mindset and their interest in nursing and the relationship between their participation in the kids nurse project and their interest in nursing. Additionally, the chi-square test was used to analyze the relationship between their interest in nursing and their local-oriented mindset by grouping the grades into early elementary grades and late elementary grades. For this research, an approval was obtained from the ethics committee to which the author belongs.

There were somewhat positive correlations between “it is enjoyable to live in the local area” and “family members’ experiences with illness and hospital visits,” “I want to work in my local area” and “I want to do a job that involves myself with others”, and “I want to be of service to people.” There were substantial positive correlations between “I wanted to be a nurse by participating in the project” and “I want to contribute to society,” “I want to do a job that involves myself with others,” “I am interested in learning the human body and mind,” “I want to be of service to people,” “I have wanted to be a nurse since my childhood,” and “it is a job worth doing.” In comparison between the grades, late elementary grades showed a significantly higher rate than early elementary grades in “family members’ experiences with illness and hospital visits,” “an influence from TV dramas of medical care,” “it is a job worth doing,” and “I love my local area.”

It can be considered that family members’ experiences with illness and hospital visits and an interest in a job interacting with people have an influence on their local-oriented mindset that they want to live and work in their local area. It is thought that their participation in the kids nurse project has created, among the elementary school students who have a desire to be of service to people, who have been interested in nursing since their childhood, and who have considered nursing to be a job worth doing, a fresh awareness that they wish to become a nurse. It is also considered that the students of later elementary grades, who show significant intellectual development, become able to recognize a nurse as an occupation. The results suggest that the kids nurse project can be expected to contribute to the fostering of the next-generation human resources who will play an important role in community medical care of local areas.

KEYWORDS : kids nurse project, elementary school students, local-oriented mindset, interest in nursing, fostering of the next-generation human resources

I, はじめに

人口減少、超高齢社会の到来により労働力人口が減少（内閣府2015）していく中、徳島県の若者の都市部への流出は増加の一途をたどっている。徳島県から他の都道府県への転出超過は20歳代が最も多い（2019徳島県）。四国の若者の大都市圏への流出要因に関する調査（2016四国経済連合会）によると、高校卒業時に四国外の大学への進学を考えていた者は80%であり、若者が進学をきっかけに県外へ転出する傾向が顕著である。若者の県外流出は、生活基盤として欠かせない医療に従事する者の後継者不足にもつながる。看護師不足のため、救急医療や休日診療等を休止する医療施設もあり、少子高齢化の進む地方では不安を訴える人も多い。A大学看護学部では、過疎化が進む地域の医療を担う次世代の人材育成を目指し、「地域と協働で行う次世代の医療を担う人材育成のためのキッズナース育成事業」（以下キッズナース事業）を2015年より実施している。2018年度の調査研究（2019吉村ら：19-26）では、キッズナース事業に参加した小学生の多くは楽しい体験と捉え、将来地元に住みたいという気持ちがある者は、看護師を有用な職業であると認識しており、医療への関心や地元への思いの概要は把握できた。2019年度は、キッズナース事業を継続して実施し、追加収集したデータから効果を検討する。

II, 研究方法

1, 研究対象者

キッズナース事業体験プログラムに参加した小学1～6年生77名を対象とした。

2, 調査方法

自作の無記名自記式質問紙調査を行った。調査内容は、属性、参加動機、体験が楽しかったか、参加により看護師になりたいと思ったか、地元に対する考え、看護師に興味を持った理由である。地元に対する考え4項目と看護師に興味を持った理由14項目については「とてもそう思う」5点～「全くそう思わない」1点の5点

法で回答を求めた。

3, 分析方法

地元志向と看護師への興味に関連、およびキッズナース事業参加と看護師への興味に関連について Spearman の順位相関係数を求めた。また、学年を小学1～3年生を低学年、小学4～6年生を高学年の群に分類し、看護師への興味および地元志向との関連についてカイ二乗検定で分析した。ただしセル内の回答数が5名以下の場合には Fisher の直接法とした。解析は統計ソフト SPSS Statistics Ver24を用い、有意水準は5%とした。

III, 倫理的配慮

対象者と参加した保護者同席の上、研究の目的、参加の自由、無記名で行うことをわかりやすい言葉で丁寧に口頭と文書で説明し、回収箱への投函で同意と見なした。事前に所属大学倫理審査委員会の承認を得た（承認番号30012）。

IV, 結果

参加者77名から回答が得られ、そのうちデータの欠損が著しくみられたものを除いた63名（有効回答率81.8%）を分析対象とした。性別は女兒が90%であった。学年は小学4年生が33%と最も多かった（表1）。キッズナース事業に参加した小学生の98%

表1 対象者の基本属性 n=63

		n	%
性別	男	5	(8%)
	女	57	(90%)
	無回答	1	(2%)
学年	小学1年生	5	(8%)
	小学2年生	9	(14%)
	小学3年生	7	(11%)
	小学4年生	21	(33%)
	小学5年生	11	(17%)
	小学6年生	10	(16%)

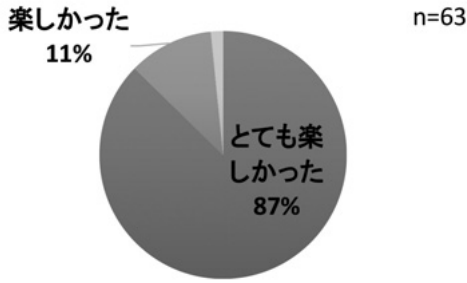


図1 参加した感想

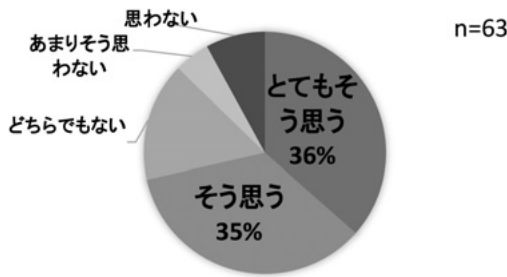


図2 参加して看護師になりたいと思った

が、「とても楽しかった」「楽しかった」と回答した（図1）。参加して看護師になりたいと思ったかについては、「とてもそう思った」「そう思った」が71%であった（図2）。地元志向と看護師への興味との関連では、「地元の生活が楽しい」と「家族の病気・通院体験」($p<.05$)、「地元で仕事がしたい」と「人とかかわる仕事がしたい」($p<.05$)、および「人の役に立ちたい」($p<.05$)にやや正の相関があった（表2）。キッズナース事業参加と看護師への興味との関連では、「参加して看護師になりたいと思った」と「社会の役に立ちたい」($p<.01$)、「人と関わる仕事がしたい」($p<.01$)、「人の体や心に関する学習に興味がある」($p<.01$)、「人の役に立ちたい」($p<.01$)、「小さい頃からなりたい」($p<.01$)、および「やりがいのある職業」にかなり正の相関があった（表3）。学年と看護師への興味の関連では、「家族の病気・通院体験」、「医療系のテレビドラマの影響」、「やりがいのある職業」で低学年より高学年が有意に割合が高かった。学年と地元志向との関連では、「地元が大好き」で低学年より高学年が有意に割合が高かった（表4）。

表2 地元志向と看護師への興味の関連

n=63

	社会の役に立ちたい	人と関わる仕事がしたい	人の体や心に関する学習に興味がある	人の役に立ちたい	収入が安定している	資格が取れる生続けられる職業	自分の病気・通院体験	家族の病気・通院体験	医療系のテレビドラマの影響	小さい頃からなりたい	やりがいのあ職業	親や教師に勧められたい	看護学が近い	他にやりたいことがなかった
地元の生活が楽しい	.186	.181	.236	.247	.192	.225	.073	.263*	.082	.221	.164	.019	-.133	-.048
地元で仕事したい	.064	.262*	.237	.311*	.026	.174	.176	.051	.178	.061	-.008	.083	.170	.017
地元が大好き	.163	.240	.226	.175	.049	.214	.163	.215	.071	.133	.123	-.076	-.075	-.191
大人になっても地元に住みたい	.159	.183	.132	.233	.086	.050	.161	.131	.098	.058	.051	.046	.104	-.046

** : $p<0.01$ * : $p<0.05$ Spearman の順位相関係数

表3 キッズナース参加と看護師への興味の関連

n=63

	社会の役に立ちたい	人と関わる仕事がしたい	人の体や心に関する学習に興味がある	人の役に立ちたい	収入が安定している	資格が取れる生続けられる職業	自分の病気・通院体験	家族の病気・通院体験	医療系のテレビドラマの影響	小さい頃からなりたい	やりがいのあ職業	親や教師に勧められたい	看護学が近い	他にやりたいことがなかった
キッズナースは楽しかった	.333**	.298*	.180	.260*	-.124	.241	.056	.189	.208	.090	.260*	-.138	.002	-.304*
参加して看護師になりたいと思った	.535**	.473**	.555**	.568**	.207	.294*	.180	.349**	.390**	.570**	.587**	.069	-.001	.035

** : $p<0.01$ * : $p<0.05$ Spearman の順位相関係数

表4 学年と看護師への興味・地元志向との関連

n=63

項 目		思う		思わない		χ^2 検定	有意水準	
		人数	(%)	人数	(%)			
看護師への興味								
1	社会の役に立ちたい	低学年	14	(33.3)	7	(33.3)	0.000	n.s
		高学年	28	(66.7)	14	(66.7)		
2	人と関わる仕事がしたい	低学年	10	(25.6)	11	(45.8)	2.726	n.s
		高学年	29	(74.4)	13	(54.2)		
3	人の体や心に関する学習に興味がある	低学年	12	(29.3)	9	(40.9)	0.873	n.s
		高学年	29	(70.7)	13	(59.1)		
4	人の役に立ちたい	低学年	14	(28.0)	7	(53.8)	3.102	n.s
		高学年	36	(72.0)	6	(46.2)		
5	収入が安定している	低学年	7	(29.2)	14	(35.9)	0.303	n.s
		高学年	17	(70.8)	25	(64.1)		
6	資格が取れ一生続けられる職業	低学年	8	(25.8)	13	(40.6)	1.556	n.s
		高学年	23	(74.2)	19	(59.4)		
7	自分の病気・通院体験	低学年	5	(20.8)	16	(41.0)	2.726	n.s
		高学年	19	(79.2)	23	(59.0)		
8	家族の病気・通院体験	低学年	7	(20.6)	14	(48.3)	5.399	*
		高学年	27	(79.4)	15	(51.7)		
9	医療系のテレビドラマの影響	低学年	7	(21.9)	14	(45.2)	3.842	*
		高学年	25	(78.1)	17	(54.8)		
10	小さいころからなりたい	低学年	12	(42.9)	9	(25.7)	2.057	n.s
		高学年	16	(57.1)	26	(74.3)		
11	やりがいのある職業	低学年	8	(20.0)	13	(56.5)	8.765	**
		高学年	32	(80.0)	10	(43.5)		
12	親や教師に勧められて	低学年	7	(46.7)	14	(29.2)	1.575	n.s
		高学年	8	(53.3)	34	(70.8)		
13	看護学校が近い	低学年	3	(37.5)	18	(32.7)	0.072	n.s
		高学年	5	(62.5)	37	(67.3)		
14	他にやりたいことがなかった	低学年	8	(88.9)	13	(24.1)	14.58	**
		高学年	1	(11.1)	41	(75.9)		
地元志向								
1	地元の生活が楽しい	低学年	16	(29.1)	5	(62.5)	3.508	n.s
		高学年	39	(70.9)	3	(37.5)		
2	地元で仕事したい	低学年	10	(37.0)	11	(30.6)	0.292	n.s
		高学年	17	(63.0)	25	(69.4)		
3	地元が大好き	低学年	13	(25.0)	8	(72.7)	9.307	**
		高学年	39	(75.0)	3	(27.3)		
4	大人になっても地元に住みたい	低学年	12	(33.3)	9	(33.3)	0.000	n.s
		高学年	24	(66.7)	18	(66.7)		

χ^2 検定 *p<.05 **p<.01 n.s: not significant
 低学年: 小学1~3年生 高学年: 小学4~6年生

V, 考察

参加小学生の98%が楽しかったと感じており、キッズナース事業の満足度は高かったと考えられる。これは、小学校における職業体験学習は満足度が高く、再度挑戦したいと願う子どもが圧倒的に多い(2002 嘉納：81-96) ことと類似した結果であった。

地元での生活が楽しいという思いと家族の病気や通院の体験、地元で仕事がしたいという思いと人と関わる仕事への興味、および人の役に立ちたいと思う気持ちに関連がみられた。これらのことから、家族を思いやる気持ち、人に対する興味関心は、地元で暮らし働こうという地元志向に影響を及ぼしていることが考えられる。人の役に立ちたい、社会の役に立ちたいと思い、幼いころから看護の仕事に関心があり、やりがいのある仕事であると考えていた小学生は、参加して看護師になりたいという思いを持っていた。キッズナース事業体験は、看護師になりたいという思いを自覚するきっかけとなったことが推察され、将来の職業選択の動機づけになると期待できる。看護学生の職業選択動機においても、「やりがいのある職業だから」という夢・憧れ、「人の役に立ちたい、人を助けたいと思ったから」という内発的動機のコアが「経済面・自立」に次いで高い(一柳ら2009：21-27)。

看護師への興味と地元志向について、低学年に比べ高学年のほうが、家族の病気体験や医療系ドラマの影響を受け、やりがいのある職業である、地元が大好きと回答した割合が高かった。児童期は知的発達著しく、児童期後半には論理的思考能力を獲得する(相山ら2002)。高学年になると、職業に対する概念が形成され、家族や身近な人との関わりやメディアやから得た知識をもとに、将来の職業選択を意識することができると考えられる。また高学年になり、自分の住む地域への理解が深まると、地元への愛着が生まれ家族や地域の役に立ちたいと思うようになることが考えられる。児童期の子どもは、広範な好奇心を待っており、知りたい、学びたいという願望が強く、読み書きに限らず実際のな技能を習

得するのに熱心である(池田ら2003)。小学生を対象とした体験型のキッズナース事業は、児童期の子どもたちの好奇心を刺激し、看護師への興味を持つ子どもの、看護師になりたいという思いを高め、地域の地域医療を担う次世代育成への貢献が期待できるものと評価できる。

VI, 結論

キッズナース事業に参加した小学生の地元で仕事をしたいという思いは、「人と関わる仕事がしたい」、「人の役に立ちたい」という思いと関連していた。キッズナース事業に参加し看護師になりたいという思いを持ったことは、「社会の役に立ちたい」、「人と関わる仕事がしたい」、「人の体や心に関する学習に興味がある」、「人の役に立ちたい」、「小さい頃からなりたい」、「やりがいのある職業である」という思いと関連していた。高学年のほうが、「家族の病気・通院体験」や、「医療系のテレビドラマの影響」を受け、看護師を「やりがいのある職業」であると考え、「地元が大好き」と思っている割合が高い。キッズナース事業は、知的発達著しい児童期の子どもたちの好奇心を刺激し、地域の地域医療を担う次世代育成への貢献が期待できるものであることが示唆された。

参考文献

- 1) 一柳陽子, 谷山牧, 山崎千寿子, 武内和子, 小濱優子, 2009, 看護学生の入学・職業選択動機の実態と構造. 川崎市立看護短期大学紀要14(1): 21-27
- 2) 池田裕恵, 志村正子, 2003, 子どものころ, 子どものからだ, 八千代出版株式会社, 東京: 130
- 3) 嘉納英明, 2002, 小学校における職業体験学習に関する実践的研究. 琉球大学教育学部教育実践総合センター紀要9: 81-96
- 4) 内閣府: 選択する未来 — 人口推計から見えてくる未来像一.
https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/sentaku/s_2_3.html, 2020. 10. 1
- 5) 四国経済連合会: 「四国の若者の大都市圏への流出要因に関する調査」結果の概要.
<https://www.yonkeiren.jp/pdf/wakamono-chosa2016.pdf#>

- search='%E5%9B%9B%E5%9B%BD%E3%81%AE%E8%8B%A5%E8%80%85%E3%81%AE%E5%A4%A7%E9%83%BD%E5%B8%82%E5%9C%8F%E3%81%B8%E3%81%AE%E6%B5%81%E5%87%BA', 2020.10.1
- 6) 梶山喜代子, 渡辺千歳, 2002, 発達と学習の心理学. 学分社. 東京: 60
- 7) 徳島県: 徳島県人口移動調査年表. <https://www.pref.tokushima.lg.jp/statistics/year/idou/>, 2020.10.1
- 8) 吉村尚美, 渡部光恵, 長尾多美子, 富澤栄子, 小川佳代, 中澤京子, 横関恵美子, 2019, キッズナース事業における参加小学生の看護師への興味と地元志向の関係. 四国大学看護学研究所年報11: 19-26

抄 録

目的：地域と協働で行う次世代の医療を担う人材育成のためのキッズナース育成事業（以下キッズナース事業）に参加した小学生の地元志向と看護師への興味の関連を明らかにし、その効果を検討する。

方法：参加した小学1～6年生77名に、看護師に興味を持った理由と地元に対する考えについて、質問紙調査を行った。分析方法は、地元志向と看護師への興味の関連、およびキッズナース事業参加と看護師への興味の関連についてについて Spearman の順位相関係数を求めた。また、学年を低学年、高学年の群に分類し、看護師への興味および地元志向との関連についてカイ二乗検定で分析した。本研究は、所属機関の倫理審査委員会の承認を得た。

結果：「地元の生活が楽しい」と「家族の病気・通院体験」、「地元で仕事がしたい」と「人とかわる仕事がしたい」、および「人の役に立ちたい」にやや正の相関があった。「参加して看護師になりたいと思った」と「社会の役に立ちたい」、「人と関わる仕事がしたい」、「人の体や心に関する学習に興味がある」、「人の役に立ちたい」、「小さい頃からなりたい」、および「やりがいのある職業」にかなり正の相関があった。学年間の比較では、「家族の病気・通院体験」、「医療系のテレビドラマの影響」、「やりがいのある職業」、「地元が大好き」で低学年より高学年が有意に割合が高かった。

考察：家族の病気や通院の体験、人と関わる仕事への興味は、地元で暮らし働こうという地元志向に影響を及ぼしていることが考えられる。人の役に立ちたいという思いを持ち、幼いころからの看護の仕事に関心があり、やりがいのある仕事であると考えていた小学生は、キッズナース事業に参加して、看護師になりたいという思いを自覚することができたと考える。知的発達の著しい高学年では、看護師を職業として意識できるようになることが考えられる。キッズナース事業は、地域の地域医療を担う次世代育成への貢献が期待できるものであることが示唆された。

キーワード：キッズナース事業、小学生、地域志向、看護師への興味、次世代育成